

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2275400212		
法人名	有限会社 ワコー		
事業所名	グループホーム郷の家		
所在地	静岡県島田市東光寺178-5		
自己評価作成日	令和 3 年 12 月 26 日	評価結果市町村受理日	令和4年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2275400212-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 静岡タイム・エージェント		
所在地	静岡県静岡市葵区神明町52-34 1階		
訪問調査日	令和 4 年 3 月 17 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然に囲まれた環境の中で、理念に「共感」「尊厳の保持」「自主性の尊重」を掲げ、住み慣れた地域でその人らしい暮らしを送ることができるよう、ご本人の気持ちや状況を常に考えながら日々の生活支援に取り組んでいます。職員は、「私メッセージ」で働きかけることにより、調理・掃除・洗濯などを気持ちよく行えるようにし、達成感に繋がるお手伝いができるよう心掛けています。また、外出支援においては、地域の方と触れ合う機会を大切に、ご利用者が笑顔で楽しく過ごせることができるよう、担当職員が知恵を出し合い計画・実行しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍でも窓ごし、ZOOM、LINEを活用し家族との面会を継続している。お便りも写真を取り入れ利用者の日常の様子を伝え、読んで楽しい内容にし家族に好評である。家族が毎月の支払いや季節の衣料や寝具の入れ替えで来所の際に、様子を伝え、要望を伺うようにしている。また、短時間のドライブで最寄りの景勝地に出かけ、利用者に季節を感じてもらったり、おやつレクやカラオケ、庭での日光浴などで気分転換を図っている。職員会議も全職員が参加しやすい時間設定にして継続できるよう工夫している。「私メッセージ」で快い気持ちになり、利用者、職員共に笑顔で過ごせるように心掛けている。常に感染予防にも気をつけ法人のマニュアルを基準に対策を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に事業所理念の「心がけ」を掲げ、ミーティングや勉強会の際に折に触れ、話し合っている	理念の「心がけ」は事務所に掲示し、会議や研修で話し合い、現状に即した表現にしている。今年から理念に基づいて、個人目標を設定し面談で確認しながら達成できるような仕組みを作った。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方との交流をし、繋がりを持つことで、地域の方の力になれるよう、地域の行事に参加(河川敷の草刈りなど)している	地域の行事はコロナ禍で中止になっているが河川敷の清掃には職員が参加している。町内会長や民生委員から地域行事の情報を得て、自治体とのつながりを大切にしている。コロナ後はふれあい会や保育園との交流、カフェ等再開の予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、町内会長・民生委員・ご家族の方に参加していただいている。キャラバンメイト養成講座も受講し、講師として少しずつ認知症サポーターを広め、又、市と協力し認知症の理解と支援できる街づくりに貢献している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を開催し、メンバーは行政(高齢者安心センター、長寿介護課)、民生委員、町内会長、入居者家族、職員で構成している。いろいろな意見を聞き議事録などで職員全員に周知しサービス向上に努めている	運営推進会議は2か月に1度書面開催している。報告書には細かく利用者の状況や事故報告、ヒヤリハット、研修内容、身体拘束研修の内容、行事の内容等書かれている。議事録は、家族に送付し職員全員に周知している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議での交流の他、防災や感染に関する相談や質問など、随時連絡をとるようにしている	市担当者とは防災対策や感染対策等疑問点を質問したり、空き情報を見てケアマネジャーから連絡がある。キャラバンメイトの件では高齢者安心センターと連絡をとり協力関係を築くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は深夜のみ。玄関と裏口にセンサーはあるが、入居者が出ないようにするためではなく、危険予防回避のための用途としており身体拘束の勉強会も随時行っている	マニュアル、指針は整備され職員は研修等で内容を検討し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。委員会は役員で行われ、職員が書いた「虐待の芽チェックリスト」の内容を検討し年に2回の研修で取り上げて話し合っている。	

静岡県(グループホーム郷の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修において勉強会を行っている。又、定期的に職員一人一人に「虐待の芽チェックリスト」を使い、意識的に不適切なケアが行われないようミーティングの時にも話し合いを持っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している方はいないが、職員はパンフレットの閲覧により、制度について理解する機会を持っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を決める前にできる限り利用者様やご家族様に見学に来ていただき、ホームの雰囲気などをみていただくことで不安の軽減に努めている。また、契約時にも十分な説明の時間を設け、疑問に答え、安心していただけるように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や、家族が来所した折には必ず近況を話し、その話の中でご希望などを把握し、運営に反映させている	家族には行事やおやつレク、外出支援の写真が載ったお便りを毎月送付している。毎月の支払いに来てくれた時に利用者の様子を報告し家族の要望や意見を伺っている。外部評価のアンケートの内容は良好であり、家族から信頼されていることが確認できた。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にミーティングを行い、意見が出し合える環境作りをしている。ミーティングで出された意見や提案を取り入れて反映させている。	半年に1回個人面談を行い、時間をかけて職員の意見や提案を聞く機会を設けている。管理者は日常業務の中で気になる職員に声をかけ個別に話を聞いたり、今年度入職した職員には気持ちよく働いてもらえるように環境整備を整えている。	ハラスメントや感染、防災、虐待のマニュアルを作成したのちに職員に研修を行い、活かせるよう期待します。IT化の実務研修も進められるよう期待します。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回ほど面談を行い、働きやすさについて話し合う機会を設けている。勤務表作成前に休暇希望を確認し反映している。職員個人のおける家庭環境も考慮し、勤務作成をしている。また、長期休暇にも対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は必要な研修を随時受講し、職員に反映している。介護の統一を図れるよう、ミーティング時以外にも個人的に指導している。		

静岡県(グループホーム郷の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は他事業所との交流を行い、情報を収集したり、提供したりしている。 ケアネットの会に出席し勉強している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談後、調査に伺い実情を把握し、ご本人との信頼関係を築くよう心掛けている。 また、ご家族やケアマネージャーから情報を得ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いに耳を傾け、話しやすい雰囲気づくりをし、ご家族の不安を取り除いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームがどのような場所であるかを伝え、理解していただき、ご本人の状態やご家族の心境などに配慮し、ご本人主体のサービスが提供できるように心掛けている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	当ホームでは入居者と職員が一緒に行動する関係である。常に居間を中心とした生活。 家事や団らんを笑顔が絶えない状況を作り、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出、外泊、面会など、いつでもできる環境としている。家族と顔をあわせたら必ず本人と一緒に話をし、現状を報告する。家族が本人と一緒におやつをとることもある。現在はコロナ禍のためリモート通話でご家族とお話しできるようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お彼岸やお盆など、ご先祖様を大切にきたご本人の気持ちを大切にし、ご家族様と一緒に墓参りに行くことができるよう支援している	家族とは窓越しやZOOM、LINEで面会を継続して行っている。家族だけでは実現できなかった墓参りに出向き感謝された。ボランティアや保育園児との交流はコロナ後には再開の予定でいる。	

静岡県(グループホーム郷の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ソファに座り、庭を見ながら外気浴や日光浴をし、開放的な気持ちになり、仲間意識が保てるように会話を楽しめるよう仲立ちをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転所した方には退去後連絡をとり相談に応じている。 死亡退所者については葬儀に出席し、その後も適時連絡をとることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活歴を辿り、ご家族の協力を得ながら、少しでもご本人の思いやご希望など把握できるように努めている。意思疎通が困難な方にも、ご家族様から情報を得て、思いや希望を考慮して、食べ物や歌、ドライブに行くようにしている	本人の意向を把握するため、職員が質問を行い対応するようにしている。また、職員は「私メッセージ」で話しているため利用者に気持ちが伝わりやすい。おやつはいくつかの中から毎日利用者に選んでもらえるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に得たご家族、ご本人、ケアマネジャーなどからの情報を基に入居者を理解している。又、日常生活の会話の中でも情報として得たことは職員間で共有するようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中での変化を細かくチェックし、把握している。 記録から全職員が把握できる。また、共有事項での統一化を図っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	基本的な介護計画以外は、その時々や日々の課題はケア内容が決まり次第、申し送りノートを利用し細かな計画を立て職員が周知できるようにしている。	申し送りノートを活用して情報共有をしている。カンファレンスは毎月の会議で気になる利用者を取りあげ行っている。モニタリングは利用者個人の経過記録を基に管理者がまとめ、介護計画書の様式も変え試みている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子やケアの実践や気づきを記入している。就業前に記録を読み把握している。記録により計画作成者は、実際に確認し、共有事項への記録をし、情報共有・介護計画の見直しに活かしている		

静岡県(グループホーム郷の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族の都合上、頻繁に行くことができない床屋さんや美容院に、理容師の免許を持つ職員により散髪を無料で提供している。外出に関しても、できるだけご本人・ご家族の意向に沿って出掛けられるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍により、毎日近所のスーパーに買い物に出ることができていない。安全安心な毎日を送ることができるよう感染に十分注意している。毎年恒例の保育園との交流を図れる運動会や卒園式には参加できない状況である		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による往診の協力が得られている。電話での相談も出来る。異常があれば家族と相談し、随時受診ができています	利用者全員が協力医の往診を受け、体調の変化時には電話相談や随時往診してくれる。他科受診については家族対応であるが、管理者が看護師であり、利用者の健康チェックや体調変化に対応している。市の出前講座で歯科衛生士に口腔内の清潔について学んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理職が看護師であり、常に目が行き届いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院が必要になった場合は、入院中は安心して治療できるよう相談に乗り、又、早期に退院できるようになるべく病院に足を運び情報交換し、ホームでの対応ができるようにしている。家族や医師とも相談しながら早期退院を目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師との連携がよくできているので、家族を含めた話し合いが十分でき、状態の変化に伴う説明や支援が適切に行える。	入居時に重度化、終末期について説明し同意を得ている。重度化した時には医師が家族と管理者に状況を説明し、管理者は家族に意向の再確認と今後の対応を話し合っ支援している。看取りの研修は1年に1度行われ看取りの経験がある職員も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時には、二度と同じような事故を起こさないように話し合う機会を設けている。また、急変に備え、急変時の対応の勉強会を随時行っている。		

静岡県(グループホーム郷の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	認知症により、避難をするのは困難であることから、ホームでの待機が基本となってくる。ホームで身の安全の確保ができるよう訓練を行っている。 近隣・地域との協力体制が整うよう、運営推進会議などで話し合っている	年に2回想定を変え、日中夜間対応で訓練を行っている。職員連絡網もあり、伝達訓練も行われている。備蓄は3日分、リストも作成している。今年度消防署に長年勤務していた職員が加わり体制が強化する。訓練後は職員意見をアンケートで聞いて改善している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	地域性を大事にし個々に合わせた言葉がけをしている。尊厳を保持するため、常に快の感情で終わらせるように心掛けている。言葉掛けは「私メッセージ」を使い、自主性の尊重をしている。	職員は「私メッセージ」を使って利用者が気持ちよく、心地よく暮らせるように言葉がけや対応をしている。利用者の経過記録の個人データはiPadに記録し職員間で情報共有している。外部評価当日は居間から明るい声が聞こえ、笑顔の写真も多く見る事ができた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人が望む生活、尊厳のある生活を送ることができるよう職員は常に対応に気をつけ、話しやすい環境づくりをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・食事時間は決めているが、入居者様によっては、眠気が強く、遅めの朝食になることもある。職員都合ではなく、ご本人の状態や状況に応じて生活ができるようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容は必ず行い、ご家族が持参してくれた服を、本人と共に選んでいる。厚着になる人には適切に声掛けして調節する。 ご本人の希望するヘアカットや毛染めをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理から盛り付け、片付けまでを一緒に行い、時には味見をしていただきながら、今まで主婦としてやってきたことを続けられる楽しさを継続できている。食事の時は、テーブルを囲んで談話を楽しみながら食事ができている	コロナ前は職員と利用者が一緒に買い物に出かけていたが、現在は調理や味見、盛り付け、片付けに関わってもらっている。おやつも選んでもらったり、手作りをしている。台所から屋食の支度をする利用者の声や調理の匂いがして五感を刺激して食事を楽めるよう心掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重や食欲に応じて量を決めている。食事量をチェックして、水分が摂れにくい人には水分チェックをし、その方に合った水分により、水分補給につとめている。		

静岡県(グループホーム郷の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の人の状態や、能力に合わせて支援している。コップ、歯ブラシなどの清潔にも注意している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況をチェックし、適切なトイレ誘導を行っている。個々に合った適切なパット類を使用する。食事量と水分補給に努めている。	トイレでの排泄を希望する意思のある方には付き添いや見守りに対応し、パットと布パンツの利用者が4名いる。夜間はポータブルトイレやセンサーマット、ナースコール使用など個々に合わせた支援をしている。排泄の記録はチェックシートに記入しその後アイパッドに入力している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になり得る原因を職員は理解し、個々に応じた対策をとっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日や時間は決めていない。本人の希望や状況で入浴している。 介助を要する利用者様については、身体の状況に合わせて入浴を行っている	利用者の希望や好みに合わせて毎日入浴ができるように柔軟に対応している。毎日入浴される利用者もおり、拒否される方には声かけを工夫し無理強いせず、本人の意思を尊重している。足浴は1日おきに行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご希望やご本人の状態をみながら、必要に応じて、午睡時間を設けている。一人ひとりの生活リズムが保てるよう、工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬リストにて理解できるようにしている。服薬については工夫をこらしている。(スプーン、ゼリー飲料、トロミ材の使用など。)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事を一緒に行うことで役割りを持った生活を保てており、張り合いの持てる毎日を送ることができている。また、編み物、刺し子、縫い物など今までの生活で行ってきた生活歴などを参考に好きなことを継続できるよう支援している。		

静岡県(グループホーム郷の家)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	庭に出て草取りや花壇の手入れを自主的にできるようにしている。近隣の家まで行き、お話をしたり、農産物をいただいて帰ってくることもあり、地域の人々とのつながりが維持できている。外出支援のドライブは、ご家族の方にもお声掛けし、協力を得ながら行っている	手入れの行き届いた庭やテラスで日光浴をしたり、毎月、近隣の季節が感じられる所にドライブに出かけている。また、家族の希望で墓参りに出かけるなど個別の外出支援で本人、家族に喜んでもらった事例がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金を手元に持っている者はいない。欲しいものがある時は、購入できるようにご家族様の了承を得て買い物ができるようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や状況により電話が出来るようにしている。コロナ禍もあり、感染予防のため、lineやzoomなどのビデオ通話を利用し、顔をみてお話ができるよう配慮している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除を毎日行っている。明るくシンプルで清潔な空間作りに心がけている。額や飾り物は季節に合わせている。花も季節に応じて植え替えている。外出支援の一環として、毎月担当の行事担当職員が季節感を取り入れた行事を計画し、実行している。	玄関にはひな人形が飾られ、花が活けられている。清掃は利用者と職員一緒に行い、感染予防対策で消毒、換気は1日に2回丁寧に行われている。日中は利用者のほとんどが居間や縁側で日向ぼっこをしたり、おしゃべりや縫い物、読書や歌を歌ったりなど思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や居間のソファで、それぞれの場所でくつろげる工夫をしている。気の合う者同士でお喋りできる空間づくりをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日部屋の整理整頓をしている。部屋への持ち込みは自由であり、家族の希望に沿っている。入居者様により、必要時、動線に沿った使い勝手にできるよう、部屋の模様替えをしている	居室の清掃は職員利用者と毎日行い、週に1回は担当職員と整頓など念入りしている。馴染みのダンスを持ち込んだり、孫の仕事(航空会社の整備士)に関係した写真やカレンダーを飾っている方もいる。季節ごとの布団や衣類は家族に協力してもらい、職員と整理整頓している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居間、食堂がホームの中心部にあり、一目で全体がわかる。バリアフリーである。トイレも判りやすい位置にある。余分な物を置かず、整理整頓を心がけている。入居者様一人ひとりの安全を考えた動線を考慮している		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	介護現場におけるハラスメントの職員研修がされていない	介護現場におけるハラスメントについて、職員が理解し、ハラスメントのない職場を確立する	①ハラスメントマニュアル作成 ②介護現場におけるハラスメントの職員研修会の開催 ・YouTubeなどの動画を参考にする ・事例集を参考にする	12ヶ月
2	11	昨年11月より、電子化にむけ、取り掛かっているが、LIFEの活用までは至っていない	サービスの質の向上のため、年度内にLIFEの活用を目指す	①電子化に慣れる ②必要な情報収集をする ③職員研修を行う ・LIFEの仕組みを理解する ・なぜLIFEの活用が必要なのかの理解を深める	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。